



## &lt;来週の資金需給予想とイベント予定&gt;

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
9/30 (月)	+ 500	+ 13,500	+ 14,000	国庫短期証券発行償還 (3M) 各種財政資金の支払い	国債補充供給 + 15,300 CP等買入 ▲ 3,100	CP等買入 + 4,000	
10/1 (火)	+ 1,000	▲ 29,000	▲ 28,000	国債発行償還 (2年)			日：日銀金融政策決定会合における 主な意見 (9月19・20日分) 米：製造業PMI (9月) 欧：ユーロ圏製造業PMI (9月)
10/2 (水)	トン	▲ 53,000	▲ 53,000	消費税・法人税・保険掛け	共通担保 ▲ 8,000		
10/3 (木)	トン	+ 1,000	+ 1,000				米：サービス業PMI (9月) 欧：ユーロ圏サービス業PMI (9月)
10/4 (金)	トン	▲ 13,000	▲ 13,000	国債発行 (10年)			米：雇用統計 (9月)

## &lt;インターバンク&gt;

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比6,100億円増加の548兆6,000億円から始まった。その後、国債発行や国債償還、各種財政資金の貸付回収などの要因により増減し、27日は550兆0,400億円 (速報) で越えた。

無担保コールON物加重平均金利は週初、0.226%から始まった。その後もビッドサイドの調達意欲は底堅く、同金利は横ばい圏で推移した。

ターム物は1W~3W物0.23%~0.30%のレンジ、1M~3M物0.30%~0.35%のレンジで出が見られた。

来週の予定は、国内では、日本では10月1日に9月の日銀政策決定会合における主な意見の公表。海外では10月4日に米雇用統計 (9月) の公表などがある。

## [無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	0.22 ~ 0.228
1M	0.30 ~ 0.45
2M	0.30 ~ 0.45
3M	0.30 ~ 0.45
6M	0.45 ~ 0.65

## &lt;レポ&gt;

足許GC取引は週初+0.23%~+0.25%のレンジで取引され、輪番オペがオファーされた25日以降は+0.21%~+0.24%の出会いが中心となった。取引が期末越えとなる週末は前場は+0.20%近辺の出会いも見られたが、後場には+0.23%近辺まで上昇した。

SC取引は2年460~464回債、5年149~172回債、10年350~375回債、20年180~189回債、30年65~83回債、40年13~17回債などに引合いが多く見られた。

## &lt;CP&gt;

今週の入札発行総額は約2兆2,000億円で、週間償還額の4兆4,000億円を下回った。発行残高は先週末時点の24兆3,671億円から、9月26日時点で24兆4,229億円に増加した。発行市場は鉄鋼、電気業、不動産業、その他金融業などで大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは銘柄や期間等によりばらつきが見られ、1M物から3M物で、0.25%から0.30%台前半での出会いとなった。先週に引き続き、1M物の内、発行量の少ない銘柄については、政策金利の0.25%に限りなく近い値で推移している。

来週の償還額は、2,900億円となっている。発行市場は、期明けの発行再開により、相応の発行が見込まれる。発行レートは、1M物では0.25%近辺での出会い、3M超の案件については0.30%台前半~0.30%台後半での出会いが散見されるであろう。

CP等買入オペは9月25日に、予定通り4,000億円でオファーされた。結果は足切りレート0.27% (前回0.299%)、平均落札レート0.334% (同0.344%) と、足切りレート、平均落札レート共に、前回比で下落した。

## &lt;TDB&gt;

27日の3M (1259回債) の入札は、最高落札利回り0.0365% (前回債0.0567%)、平均落札利回り0.0047% (前回債0.0498%) となった。来週の入札は、10月4日に3Mが予定されている。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。